

療養通所介護まごころ
2020年運営推進会議 記録

1. 日 時 2020年7月13日(月) 13:30-14:30

2. 出席者

氏名	構成区分	職名等
三木 秀信	地元住民代表	元御旅自治会会長
中條 あゆみ	知見を有する者	特別養護老人ホームのじぎくの里施設長 療養通所介護まごころ 安全サービス提供管理委員会委員
片山 ひろみ	知見を有する者	(株)まごころケア研究センター高砂 訪問看護ステーション管理者(看護師) 療養通所介護まごころ 安全サービス提供管理委員会委員
田中 智	開設法人代表	(株)まごころケア研究センター代表取締役社長
坪田 典子	管理者	療養通所介護まごころ管理者・看護師

3. 欠席者 高田 標子(利用者家族)
高砂市関係者

4. 会場 (株)まごころケア研究センター高砂2階会議室

5. 議事 (1) あいさつ(田中社長)

- ①介護保険法に年1回の開催を定められている運営推進会議を予定しましたところ、ご多忙にもかかわらずご出席いただきまして御礼を申し上げます。
- ②当初は、2月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の予防対応のため、この時期の開催となりました。
- ③今回より、特別養護老人ホームのじぎくの里施設長の中條あゆみ氏にメンバーに加わっていただくことになりました。

(2) 療養通所介護の制度・概要・利用状況等(坪田管理者)

- ①療養通所介護は、難病やガン末期等の重症度の高い、医療と介護の両方のニーズを持つ方を対象にしている。
- ②既存のデイサービスを利用できない個別の看護・医療的ケアが必要な方を対象にしている。
- ③そうした観点から訪問看護ステーションと一体的な運営を行っている。
- ④全国でも療養通所介護は、最大90ヶ所程度しかなく、障害者(児)も対応している事業所は10ヶ所程度しかない。近隣の地域でも閉鎖した事業所も出ている。
- ⑤既存のデイサービスとの違いは、利用者の自宅から自宅までが、サービス提供時間となっている。

- ⑥地域密着型通所介護の類型に属しており、高砂市以外の利用者については、別途手続きが必要。
 - ⑦介護保険の利用者には、限度額があり、利用希望どおり、利用が難しい時もある。
- (3) 利用状況報告～介護保険対象（坪田管理者）
- ①7月時点で3名の利用となっている（内1名は7月に死去）
 - ②いずれも重度の障害を持っておられ、吸入・吸引・注入・酸素等のケアを行っている。
 - ③また、意思の疎通方法も文字盤利用や首の振るなどの方法となっている。
 - ④障害者（児）の利用者について（いずれも重度心身障害）
 - ㊦児童発達支援 3名
 - ㊧放課後デイサービス 6名
 - ㊨生活介護 7名

*年齢の関係で今年度から生活介護の利用者が増加し、収入面で減収の影響を受けている。
 - ⑤課題
 - ㊦スタッフが長続きしない（スキルアップできずに辞めてしまうのでスタッフ不足に対応して利用者数を調整して事故防止に努めている）
 - ㊧家族からは、地域や近隣からの福祉・介護の情報が入手しにくいとの声が多く、ケアマネとの連携強化が必要。
 - ㊨報酬単価が高いため、自己負担が高くなる場合がある。
 - ㊩介護保険の利用者が、当日に急に休みになると代替の利用者を見つけにくく、穴が空いてしまう場合が多い。
 - ㊪障害者（児）のサービスも含めて災害時の対応に多くの課題を抱えている。今後、市町も含めた連携が必要。
 - ㊫老々介護も増加してきており、重症度が増すと自宅での介護をあきらめ、サ高住や施設入所になることも多い。
 - ㊬療養通所介護自体の認知度が低い
 - ⑥外部委員からの意見
 - ㊦重度の利用者が多く、人材の確保や安全面で大変気を遣うことが伺われる。
 - ㊧呼吸器を初めとする医療機器などの進歩も著しく、その面での対応も難しいと推察される。

(4) サービス提供現場見学

5. 閉会

（記録 田中智（株まごころケア研究センター社長））